

## WHC 第9回OB・OG夏合宿記録（2015年8月2～4日）

9回目を迎えた今年の夏合宿は、信州・乗鞍高原をベースに行われました。ここ何回か続けて8月第一日曜日からの2泊3日が定着した夏合宿は、連日真夏日や猛暑日、熱帯夜が続く夏本番の都会を抜け出すチャンスでもあります。

初日は7時ちょうどのスーパーあずさ1号で新宿を発ち松本へ。7号車を中心にバラバラな指定席をとっているの、つかの間の一人旅気分を味わいながら、車窓の風景を眺めつつ甲府盆地に入ると、水蒸気の多い空の下に楡形山、鳳凰三山、甲斐駒、八ヶ岳などを次々と望むことができ、懐旧の気持ちとともに合宿への期待が高まってきました。特急終着の松本は、さわやか信州のイメージと違い、この日の最高気温は36.0℃と東京都心の35.1℃を上回る暑さでした。松本で神戸組が合流し、新島々経由で乗鞍高原観光センターでバスを降りると、上高地とほぼ同じ標高1500mの世界ながら思ったよりずっと暑く、やや期待外れの感もしました。バス停から徒歩数分の宿「旅館こだま」へ入り、ここでマイカー組も合流し、再会の挨拶がてら宿の食堂で、各自が用意した弁当に味噌汁がふるまわれる昼食となりました。



昼食後、軽い荷物だけを背にして観光センターから再びバスに乗り、三本滝を目指しました。「かもしかの径」と呼ばれる小道は米椴、白檜、岳樺などの森を緩やかに下り、林床に咲く花は、蟹蝙蝠、一葉草、銀竜草、花の終わった御前橘、舞鶴草などいずれも地味系のもの。40分ほどでつり橋を渡って滝の正面に出ました。三本滝は小大野川本流と左右の支流にかかる3つの滝の総称で「日本の滝百選」に入っているとか。岩肌を伝ったり、豪快に水しぶきを上げたり、落差も水量も表情が様々な3本の滝を同時に眺めることができ、なかなか見事でした。



バス停に戻り、今度は「子リスの径」を通って孫市平へ向かいました。樹相が少し変わって落葉松が目立つようになり、地面に散り敷いた枯葉、枯れ枝がフカフカして気持ちのいい道を40分ほどで、3日目に一部を歩いた一の瀬園地を見下ろす展望台で一休みしました。広大な草原と緑の山、とりわけ青空に沸き立つ入道雲が印象的でした。孫市平の草原を一回りした後、「原生林の小径」を歩き、休暇村からバスに乗って宿に戻りました。



早速風呂へ。湯は乗鞍高原温泉から引いた乳白色の硫黄泉で効能豊か、勿論湯量豊富なかけ流しです。夕方ともなれば頭上を吹き抜ける風も心地よく、大きな朴の木を見上げながら、程よい熱さの露天風呂に身を沈め、思い切り身体を伸ばしました。今回の宿「旅館こだま」は、バス停至近ながら静かな環境にある、和室9室の小じんまりした宿で、2晩ともWHCの貸し切りでした。若い(?)方の対応もてきぱきしていて気持ち良く過ごすことができました。

夕食開始までに今回の参加メンバー18人が勢ぞろいしました。(敬称略)

1期…大河内、佐藤一雄、田中泰邦 3期…小川戸

4期…菅原(猪間)、縹(日向寺)、大竹、田上、徳淵、花田、五十嵐

5期…佐藤(高橋)牧子 6期…杉原(綿貫)、柁木(小幡)、佐藤徹

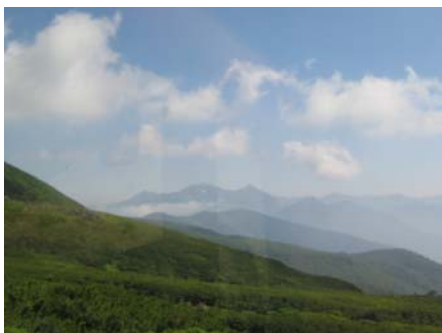
7期…田中健治 8期…齋藤(=リーダー)、佐藤憲一



昨年の20名の参加者中、2期、4期各2名の方は今回不参加、一方、柁木さんは再参加。田中健治さんは今回初参加でした。

OB会長小川戸さんの挨拶と乾杯の発声で夕食がスタート。生ビールがのどを潤し、岩魚の塩焼き、信州サーモンのマリネ、信州豚、信州そばなど地場もの中心の献立。追加の生酒も信州木曾の七笑。夕食後、幹事部屋でテーブルを囲み、酒やつまみを前に、まず自己紹介、近況報告などから始まり、続いて賑やかな交歓会となりました。

2日目、朝の露天風呂から見上げる朴の木の上に青空が広がっていました。



この日は乗鞍岳登山です。観光センター8時発のバスが高度を上げるに従い両側に深山秋麒麟草、蛍袋、丸葉岳蓐などの花が目立つようになり、森林限界を抜けると周囲の展望が開けて、前穂から奥穂、さらに槍ヶ岳が見えてきました。乗車50分弱の大雪溪・肩の小屋口のバス停で降りると、雲の中に霞むように、八ヶ岳から蓼科山までの連山、甲斐駒から北岳に連なる南アルプス連峰を望むことができました。



いよいよ標高3026mの頂上に向けて登山開始。大雪溪ではスキーやスノーボードを楽しむ人が点々と動いていました。我々もちょこっと残雪を踏んで登りました。道の両側や岩の間には花、花、花。それも前日の地味系に比べると、白、黄、ピンク、赤、青、紫、さらにそれらの中間色や混合色と派手系の色に溢れていました。トップを歩く田上花博士が説明をしてくれている様子は分かりますが、18名の長い行列では、具体的な内容は後ろまで伝わってきません。「それでも花はきれいだっ」…岩爪草、深山金鳳花、黄花石楠花、青の梅桜、当薬竜胆、四葉塩竈、兔菊、小梅蕙草、白山防風、岩鏡、靱草…じっくり登って肩の小屋で一息入れ、稜線の岩や砂礫を登り始めると、背後に穂高連峰、岳沢の雪溪もはっきりと見え、さらに雲の合間からわずかな時間ですが、槍ヶ岳の穂先を見ることもできました。この辺りから砂礫に強い駒草が数を増し、「高山植物の女王」の姿を惜しげなく見せてくれました。最後の登りは、登る人、下る人、コンパスやスピードの違う人が狭い山道を行き交うので、車線が乱れ、時間も余計にかかりました。老若男女、国籍もまちまちで、よちよち歩きの子供から我々より上の世代が交







肩の小屋から畳平へ向かう道すがら、花博士から特に解説されたのが御蓼と明月草。草丈も葉や花の形もほとんど同じながら、花の色が、かたや真っ白、かたや赤みを帯びている、それだけでずいぶん違う名前の花でした。(明月草(名月草とも)の名は、お月見の頃に花をつけるのが由来とか)

下りでは少し寄り道をして富士見岳に向かいました。登路にはやはり駒草と岩桔梗、深山大根草などの群落が見られました。畳平へ出てお花畑に入ると、箱庭というのか寄せ植えというのか、そこまで少なかった白山一花が主役となって他の花とコラボをなし、木道沿いには一昔前の恋の花・黒百合の一群れも見られました。15時5分、畳平発のバスに乗り、うとうとしている間に観光センターに着き、宿に戻りました。



一風呂浴びてから、夕食の乾杯発声は佐藤一号(一雄)さん。この日も信州の味は馬刺し他もろもろ。食後、幹事部屋では一升瓶やウイスキーの栓が抜かれ、胴元部屋では何やら難しそうなゲームが行われました。

なお、私・五十嵐が上田勤務時に単身レンタカーを駆して畳平から乗鞍山頂に立ったのはちょうど20年前のこと。さらに遡れば、徳沢合宿解散後、5人で肩の小屋に泊まり、生涯ではじめて雲海から登るご来光を拝んだのは、52年前の8月2日でした。

3日目も乳白色の露天風呂から始まりました。外へ出ると、乗鞍岳の稜線に落ちて行く下弦の月が青空に小さな白い穴をあけていました。この日は、乗鞍高原の滝・林・池を散策です。



前日同様、8時のバスで発ち、すずらん橋から善五郎の滝の滝見台へ。いかにも乗鞍岳から流れ出ているという感じの端正な滝で、滝壺近くまで下ると、水流やしぶきが背後の朝日を受けて大きな虹を描いていました。「ふたりの小径」を歩き、巨大な葉ばかりになった水芭蕉の間を歩いて牛留池へ、三榎の群生する池の水面に乗鞍が影を映す「さかさ乗鞍」が見られるとのことでしたが、全容は池に写らず、それでも「さかさ剣ヶ峰」だけは見ることができました。次いで「口笛の径」を

通って一の瀬園地のあざみ池へ。森に囲まれたやや大きな、静かな池でした。「小梨の径」を歩いて「まいめ池」へ。途中の薊、苧環が咲く広々とした草原（「日本一平」というようです）は、初日の孫市平の展望台から見下ろした辺りになります。この池からの「さかさ乗鞍」は先程よりそれらしく写っていました。ここでやや窮屈な姿勢ながら山と池をバックに全員写真。最後に「白樺の小径」を登り降りして日帰り温泉の「ゆけむり館」まで歩きました。途中、初秋の訪れを告げる萩、女郎花、柳蘭などの花を見ることもできました。

休憩を入れて3時間の歩きでしたが、この日も強い陽射しの下、たっぷりかいた汗を白濁の露天風呂と内湯で流しました。そして流した汗より少し多めの生ビールを補給し、美味しいパスタとピザ料理で、好



天に恵まれ、花、滝、池を楽しんだ2泊3日の今合宿の打ち上げを行いました。

齋藤リーダーはじめ皆さんには今年も大変お世話になりました。OB・OG合宿も来年は10回目、日程は8月7日から、行く先はいくつか候補が出た中でリーダーに一任することでもちろん衆議一決しました。

皆さんお元気で！ またよろしくお願ひします。

「のりくら」を折り込み詠める…「のんびり歩いて 稜線行けば 草花彩る 楽園に」

（記録係 五十嵐昭）